



北京理工大学 日本語学科学生
私にとって友愛とは

2015年版

一般財団法人 日本友愛協会 編

北京理工大学 「友愛講演会」奨学金対象感想文
私にとって友愛とは

∞∞∞ 目 次 ∞∞∞

選考を終えて

日本友愛協会 理 事 長 嶋山 由紀夫 ……… 1

事は小なりと雖も為さざれば成らず 講演会講師
日本友愛協会 常務理事 川手 正一郎 ……… 3

感 想 文	第一位	徐 嘉 熠 ………	6
	第二位	李 雅 婕 ………	8
	第二位	毛 嘉 怡 ………	10
	第三位	張 小 潔 ………	12
	第三位	賈 茹 楠 ………	14
	第三位	張 亞 男 ………	16
	入 選	邵 雪 穎 ………	18
	入 選	趙 宇 傑 ………	19
	入 選	李 晨 ………	21
	入 選	陳 貴 華 ………	23
	入 選	高 佳 蔚 ………	25
	入 選	戴 玲 ………	26
	入 選	班 宇 識 ………	28
	入 選	汪 玉 珏 ………	29
	入 選	鄒 桓 ………	31
	入 選	顧 盼 ………	32
	入 選	張 婉 舟 ………	34
	入 選	蘆 雅 潔 ………	35
	入 選	徐 嘉 澍 ………	37
	入 選	王 菁 ………	39

北京理工大学奨学金対象感想文

「私にとって友愛とは」の選考を終えて

鳩山 由紀夫

とても嬉しかったのです。とにかくとても嬉しかったのです。これが、北京理工大学の学生のみなさんが「私にとって友愛とは」というタイトルで書いてくださった感想文を読んだ私の素直な気持ちでした。

それはみなさんが真剣に真面目に日本語を学んでいる姿が想像できたからでした。

日本と中国の政治的な環境は、必ずしも良好とは言えません。そして、その原因はどちらかと言えば、日本側が作っていると言わざるを得ません。このような時に、否、このような時だからこそ、中国で日本語を勉強してくれること自体が嬉しいことですし、しかもみなさんが、日本語を日本人と変わらないほど使いこなしていることに、非常に感動をいたしましたのです。多分、日本では中国語を学ぶ学生数が減少しているのではないかと思いますし、中国語を上手に使いこなせる人はかなり少なくなっていると思います。日本は中国に、北京理工大学の学生のみなさんに学ぶべきでしょう。

その意味では、感想文を書いてくださったすべての学生さんに満点を上げたい思いでしたが、優劣を決めなければならないとのことで困りました。

そこで私は、日本語としては若干無理がある表現を減点する方法で採点をいた



しましたが、結果として多くの学生さんが高得点となり、中でも優秀な受賞者のみなさんは特別として、感想文を書いてくださった全員を入選にするようにいたしましたのです。

私の採点が甘いのではないかとと思われるでしょうが、では実際に私が北京理工大学の学生さんのような作文を他言語で書けるかと問われると、首を振らざるを得ませんので、けっして甘く採点した訳ではないのです。

内容を拝見しますと、1位となった徐嘉熠さんの作文のように、多くのみなさんが川手常務理事など日本友愛協会の講義に、真剣に耳を傾けてくれたことが良く分かりました。

また、友愛を単なる机上の概念で捉えるのではなく、自分の経験から理解しようとする姿勢が多く見られました。中には、人と人との友愛を超えて、自然の生き物や植物との友愛を書いた作文もありました。そうです、自然といかに共生していくかは、人間が抱えている地球上の最大のテーマと言えるでしょう。私は感想文を書いた学生さんたちが、これからの長い人生を通じて、自ら描いた友愛の理念を活かしてくださることを大いに期待したいと思います。

事は小なりと 雖もいえど な 為さざれば成らずな（荀子）

川手 正一郎

感想文を読ませていただき、皆さんが日本語を深く理解されていること、語彙の豊かさと達者な日本語力に思わず感動し襟を正しました。そして中国の若い人たちの進取の氣象に心を打たれるとともに、私自身多くのことを学ばせていただき



ました。感想文を送って下さいました皆様に心から御礼申し上げます。

この度の友愛講話について、私は単に友愛という思想を伝えることでなく、私が過去培った友愛や中国に対する「私の思い」を、中国の若い人たちに少しでも理解していただくことを目的に、教室へ入りました。

私の心が中国の人たちにどのように伝わるのか、私の話法が理解されるのか若干の不安もありました。しかし聴講して下さる学生さんの中でたとえ一人でも理解して下さる方が居れば、それで良い。まさに一期一会の心境でした。

また講話中、一人一人の輝く瞳をしっかりと見詰め、この中の誰が解ってくれるのか、誰でも良い、私に与えられたチャンスをなんとしても活かしたい、そう願いました。今でもあの日の真剣な個々の眼差しは忘れられません。

日本の書家、相田みつをさんの書に「その時の出会いが人生を根底から変える

ことがある」という詞があります。その言葉通り素晴らしい皆さんとの出会いは、私の友愛観に強い自信と感動を与えてくれました。

私は 63 年前友愛を知り、友愛を行動に活かすことを念頭に今日に至りましたが、今思うに、北京でのあなたたちとの出会いは友愛を信じ、継続してきた我が人生最高の喜びであり、至福のひと時でした。そして私にとって友愛とは天命であると痛感した次第です。

世界はますます多様化し、人間としての常識や民主主義、資本主義、社会主義も時代とともに変化し、人間も国家も共存と平和を目標に新しい時代を拓いていくものと想われます。友愛社会とは自由と平等の並列する社会であり、目的達成の手段としての友愛は、自己完成を目指し自己研鑽を継続することです。

歴史は繰り返すという言葉は人間の性が変らぬことの証明ですが、科学技術の発達は各国の経済的格差を埋め、情報と人間の交流は差別の解消を促し、友愛の芽を育て、50 年 100 年後国家は競争から共存の時代に転換し、世界平和実現に向うと信じます。焦ることはありません。熟れるのを待てば良いのです。

これからの国家は相互尊重と相互理解を深め、国家としての共存と平和を最優先すべきではないでしょうか。

難問の山積する世界に対し、友愛は自由と平等の並立する社会と国家の建設を目標に、日本から小さな一歩を発信しつつ着実に前進し今日を迎えました。

友愛と中国との触れ合いは簡略しますと、1972 年 9 月日中国交回復を契機に 1974 年世界青少年交流協会の訪中団に参画、1975 年中国青年代表団初来日、1978 年第一次日中友好友愛使節団派遣、以来 2000 年まで毎年中国からの研修生の受け入れや諸交流を深め、2001 年からは植林事業に参加、今日まで 26 回の中国各地での植林を行いました。大きな中国にとって友愛の植林活動はハチドリのひとつです。

私は小さな 1 本の苗にいつも日中友好の願いを込めました。

広大な中国。私達が 15 年前植えた苗はしっかり中国の大地に根付き、緑の森となりました。

遙か彼方の中国の大地にそれぞれの苗は細かく根を張り、幹を通して輝く緑を実現したのです。ちなみに昨年までの植林面積は 3,311ha、植林は 499 万本となりました。私は中国を思う度に共に植林した人々の笑顔と木々の息吹を感じます。そして、その緑の輝きがやがて真の日中友好のシンボルとなる。そう確信して居ります。

また 2014 年からは全青連のご助力のもと友愛国際写真コンクールを開催し、内外に大きな評価をいただき、友愛運動に新たなページを開きました。

考えてみますと中国と友愛の交流は 1974 年以来既に 42 年。この友好の歴史を支えて下さいましたのは中国全青連の皆様の心温まるご理解とご支援の賜であり、末筆ながら全青連関係各位に対し深甚なる敬意と謝意を表します。

日中友好は地道でひたむきな交流活動により徐々に浸透していく。北京理工大学での私のささやかな講話も一本の苗かも知れません。

「事は小なりと雖も為さざれば成らず」

本気になれば道は通ずる、そして真の日中友好が実現すると期待します。

北京理工大学の皆様にご心から感謝と御礼を申し上げます。

徐嘉熠（4年）



「友愛は難しい」

と、初めて講座で「友愛」という言葉を聞いた時そう思った。人々の信頼関係が弱い今の世の中、転んだお年寄りが助けてくれた人を逆に罪に陥れて賠償を請求するという話をよく耳にするし、子供や女性の誘拐の問題も深刻になっている。このような背景の中、知らない人に対して友愛を持つのは少し無理ではないかと思っていた。知らない人どころか、友達のあいだでもけんかするときがある。そして、マクロの視点から見ると、集団、あるいは国家の利益と個人の利益とのあいだに矛盾があるとき、友愛の方法は何だろうといろいろ考えた結果、冒頭の一言を思った。

しかし、今年川手さんの講演を聞いて、再び「友愛」について考えるようになった。もっとも印象深いのは川手さんが「自由は弱肉強食の放埒に陥りやすく、平等は『出る釘は打たれる』式の悪平等に墮落しかねない。その両者のゆきすぎを克服するのが友愛である。」とおっしゃった言葉である。つまり、友愛とは仲良くすることではなく、世の中にある矛盾の両者の行き過ぎを正すことではないかと思うようになった。

たとえば、人間自身にかかわる友愛から見ると、理性と感情を両方とも利用して、最後の判断を愛に任せることだと思う。人がひたすら感情に支配されると、動物と変わらない。まったく理性に任せるとロボットのようなものになる。友愛は理性と感情の行き過ぎを正す。具体的に、理性で人の需要を察し、感情で人の気持ちを理解しようとする。そして友愛は理性と感情を利用する上で、人に対して尊重と思いやりの気持ちを持つ。しかし言うは簡単だが実際には容易ではな

い。一番手っ取り早いのは弱い人を助けることだが、それは本当の友愛ではないと思う。助けることが人を傷つけることもある。たとえば、映画『最強のふたり』の中、頸椎損傷で体が不自由な主人公が一人の黒人の介護者を雇った。その黒人を選んだ理由は「彼は常に当たり前のように私に携帯電話を渡すからだ。つまり私が体の不自由なことを忘れている。」ということである。主人公を患者として慎重に介護する人より、その黒人の介護者は友愛を果たしたと思う。

人はそれぞれ違う。その一人一人の個性を尊重し、また一人の人間として自分を知り、自分で運命を決め、責任を取ることから、友愛の形が見える。それは人間と人間の関係だけではなく、国と国の、また人間と周りの環境との関係でもあるのではないかと考える。

今、私にとっての友愛とは選択するときの判断基準であり、たゆまず努力して近づくべき理想の精神でもある。私は今も友愛は難しいと思うが、それを実行していきたい。一人でも多く友愛を実行し、友愛の世界が見られるよう願っている。

李雅婕（4年）



友愛とは人それぞれ異なる理解があるだろうが、私にとっての友愛は二人の祖父との話から見いだした。

今年80代である私の母方の祖父は昔、兵士であった。彼の心に深く傷をつけたその戦争で、私が大学で日本語を専門とすることがなかなか納得できない。

「日本語を専門としたら、仕事が見つかるの？」とおじいさんはいつも私の将来を心配している。彼の考えでは、日本語を勉強したら、世間から異様にみられる可能性がある。それで、どうしても日本語を勉強したいなら、もう一つの専門を専攻した方がよいと。

戦争は人の体に傷をつけるのみならず、精神及び心にも影響を与える。この傷は一生かかっても治せないといっても過言ではなかろう。

それに対して、私が高校二年生の時、あの世に行った父方のおじいさんは、70年前はまだ若い子であった。その頃のことをおじいさんに聞いたら、いつも同じエピソードを話してくれた。

「わしはね、日本語で1、2、3も数えられるんだ。これはね、わしが若い頃ある日本人の所から学んだんだよ。戦争中、皆怖くて昼もドアを閉めたまま家にずっと閉じこもっていたの。わしの家もそうだったが、ある日、ドンドンという声で、誰かわしの家のドアを叩いたんだ。一人で家にいたわしはあまりにも怖くてドアを開けなかった。向こうの人はそのままドンドンって10分ほど続けたんだ。幸いにわしのお母さんが戻ってきた。こわごわお母さんはドアを開けると、一人の日本人が外に立っていたんだ。」

その日から、その日本人は毎日おじいさんの家に来て、言葉が通じないにもかかわらずおじいさんとしゃべっていたらしい。それでおじいさんが数字を数えることが出来た。時々その人は飴をくれることもあったそうである。実に面白い人だったとおじいさんは言った。

「日本人はね、全部悪い人でもないよ。ほら、こういう人もいるじゃないか。」とおじいさんは言った。確かにその時、日本は戦争の代わりにこのように平和に一衣帯水の隣国である中国と交流をして来れば、今の中日関係はまた別の光景になったのであろう。

二人が私に伝えたのは、単なる記憶だけではなく、話の裏に込めていた私に対する愛も伝えてきた。私の進路を心配している祖父も、自分のエピソードを私とシェアするおじいさんも、異国にいた日本人も、愛を以て自分が実際に経験したことを人とシェアしている。このような交流が多ければ多い程人を尊重する、理解する、互いに助け合うことがしやすくなる。友愛の社会がこれで見えるのではないか。

毛嘉怡（2年）



子供の頃から、一年に一度の運動会が好きで、始まるずっと前から楽しみにしていました。運動会はよく「友情第一、試合第二」というスローガンが掲げられました。幼くて単純な子供にも、勝つことが大切ではなくて、相手に対して友愛の精神を持つことが大事だということは理解できました。つまり、試合の結果が思ったより悪くても、喧嘩をしてはいけません。そういう場合は、自分と相手の立場は異なるけれども、友愛の精神を發揮してお互いに肩をたたきながら、「よくガンバったね」と言うことが大事なのです。

私はその精神を大事にしながら成長しました。今の私にとって、友愛とは単に喧嘩しないということだけではなく、心を開いて周りの人達や見知らぬ他人を理解しようと努力し、共に幸せになれるような方法を見つけようとする態度だと思っています。それを実践するために、私は余暇を利用して、ボランティア活動に参加しています。

私達の大学の近くに、地方から出稼ぎに来ている家族の子弟のための小学校があります。私は昨年、週に1回そこで二年生の授業の手伝いをしました。事前に教材を準備するのは大変でしたが、子供達の笑顔に接するのは楽しいことでした。私のクラスに知的障害の子供がいました。ある時、その子供に質問をすると、彼女の答えを聞いた周りの生徒達は、馬鹿にするように囁き立て、彼女は泣き出してしまいました。私はただ、その生徒達の嘲笑を制止するのがやっとでした。後で、担任の先生に相談しましたが、先生も苦勞しているようでした。私はとても悲しい気持ちになりました。この後、彼女は手先がとても器用で、上手に

千羽鶴を折ることを知り、そのことをみんなの前で褒めてあげました。そして、クラスの生徒達に向かって、「もし、自分で彼女のような立場になったらどう思うか。彼女はこんなに上手に千羽鶴を折ることができます。誰でも、人間として他人より秀なところがあります。私達は、お互いに相手の良いところを認め合い、平等に接していかなければいけないのです。それが友愛の精神です。それを大事にしましょう」と語りかけました。二年生にとっては理解しにくかったかもしれませんが、その日から彼女をバカにするような態度は減っていきました。みんな落ち着いてほかの人の意見を聞くようになってきました。自分の授業が生徒達の心の成長に役立っていることがわかり、とてもうれしい気持ちでした。

私にとって、友愛の精神は人間の幸せと社会の発展、そして世界の平和に寄与するもので、とても大切にしなければいけないものです。私はこれからも友愛の精神を大事にして、不幸な目に遭った人達に、心を開いて接して、暖かな雰囲気を作り、皆に幸せをもたらすように努力しながら生きていきたいと思っています。

張小潔（4年）



子供の頃、私たちは先生や、親に団結、友愛を教育された。その時の友愛は主に友達に対する愛情である。喧嘩は許さず、いい事を一緒に享受して、お互いに助けること。これは人間同士にとって当たり前のことだと思う。ではもし、相手が植物や動物なら、どうなるか。私にとっての友愛は人間はもちろん、もっと強調したいのは植物や動物など命があるものに対する愛情である。

幼い時のある日のこと。母が作ったご飯が多すぎたので、庭の予備木材を集めた一角にそれを置いた。しばらくして、母はご飯の方向を指さしながら小さな声で私に「見てごらん」と言った。見ると、一匹の白くて、小さいネズミがご飯を食べていた。ふわふわした口と一緒に動いた髭、白くて粘り気のあるご飯をつけていたピンクの鼻、太くてふんわりした体。圧倒的な可愛さで、私はすぐそのネズミを愛するようになった。もっと近くに移動し、ちゃんと見たかったが、私の存在を発見したネズミちゃんはすぐ逃げてしまった。太い体なのに、逃げる時は不思議にすばしこい。なぜ逃げるのかと自問したが答えが出ない。ネズミちゃんと親しくなれなくて、本当に残念だと思っている私の顔を見て、母は「動物はほとんど人間が怖いと思うよ、だから、もしちゃんと見たいなら、動物にあなたの存在を分からないようにしなさい」と言った。子供の私は分からなくて、動物と人類は友達になれるはずだ、なぜ動物は人間が怖いと思うのと思っていた。

小学生になり、私はやっと分かってくる。学校の中には鮮やかな花がいっぱい、言葉では表せないほど美しい。放課後、同じクラスの梁さんは密かに赤いバラの花を摘みたがるのだ。まだ子供だから、力不足で、一気にバラを摘もうと

しただけできなかった。一部の花卉を落とされる赤いバラは命をかけても枝から離れたくないと言わんばかりだった。だが、梁さんは摘み取ろうとする。バラはそれでも敵に屈服しなかった。その時、私は胸がつぶれるほど心痛み、自分がその赤いバラみたいな感じがした。そして、初めてクラスメートと喧嘩した。その赤いバラのために。

植物も動物も話せないで、自分の気持ちを言葉で私たち人間に伝えられないが、実際に彼らは他の方法で自分の考えと情緒を表すのだ。例えば、美味しいご飯を放棄しても逃げたいネズミちゃんと、命をかけても反抗したい赤いバラ。もしあなたが自分の心で聞けば、きっとネズミちゃんの怖い思いを聞くことができる。もしあなたが自分の心で見れば、きっと赤いバラの涙が見える。

私にとっての友愛は自分の心でこの世界を感じる事。そして、愛すること。身近の人の心底の声を聞く。そして、命がある一切の物に対して愛情を持つ。命は美しく、奇跡的なものと同時に脆弱なものであるから、大切にしなければならない。人間の命だけではなく、道端の白樺、山坂の小さな花、キャンパスの野良猫、軒の下に休んでいる雀、花壇の上でダンスする蝶々、川のそばで遊んでいる蟹など数え切れない命がある。こんなにも素晴らしい世界、こんなにも多様な生命に私たちは友愛の気持ちを持とう。そして、もっと美しい明日を作ろう。

賈茹楠（4年）



初めて「友愛」という言葉を見た時、ただ単純の兄弟の愛であると思いい、その中で含まった深い意味が理解しなかった。しかし、年をとりつつあり、交流範囲が広まったことに伴って、「友愛」にある美しさと広さを実感してきたのである。

「友愛」は、「友」と「愛」、二つの文字によって構成された。まずは「友」、つまり「友達」の「友」である。真の友愛精神は、身近な人に留まらず、他の人、且つ世界全人類を「友」にし愛し合うことは即ち「博愛」なのである。昔より、中国には「吾が老を老として、以て人の老に及ぼし、吾が幼を幼として、以て人の幼に及ぼさば、天下は掌にめぐらすべし」という名言があり、他の人も自分の親、自分の子、及び自分の兄弟として扱えば、博愛の精神が他人に影響を与え、やがてみんなが助け合う境界へ辿り着くということは、古代の聖人が望む理想の世界へ辿り着く。また、キリスト教には似ている教訓があるそうである。「友愛」は一人に限らなく、民族間の付き合いにも適用すると思う。愛を惜しげなく他人に伝わり、他の民族の人を自分との血の繋がりがあのように付き合いえば、戦争などの悲しい争いが避けられ、世界は必ず愛が溢れるであろう。

「博愛」を含めている「友愛」の精神は、簡単になれるものではないと考える。私に言わせれば、一番重要なのは人と人の相互尊重なのである。世界中の70億の人々は、完全に同じであることは決してないゆえ、人々間の違い、つまり個性というものがある。尊重すべき対象は他の人の自分と異なるところで

ある。中国の元総理・周恩来により「小異を残し大同につく」という主張がある。個性を尊重することを付き合いの前提とされ、両方とも平等的な位置につけ、この上には話し合える可能性がある。違いが避けられないからには、その違いがあることを認め、双方にある共同のところを探し出すことが賢い付き合い方であると思われる。尊重の土台を築き上げるこそ、相互理解でき、相互愛し合うことができるのである。

また、行動の角度から見れば、助け合うことは友愛精神を伝わる有力の手段である。愛があり、他人にその愛を感じさせるため、他人を助けることを通じて愛をこめた心の温度を他人に知らせる。電車の中で体の不自由な人に座を譲るだの、ホームレスの人に熱い飲み物を買うだの、このようなささやかなことこそ、積み上げるうちに、必ず社会に大きな影響を及ぼすであろう。助けられた方はその善意を受け止め、自分の心の中に残る暖かさを他人に伝わる。このようになれば、愛を広げる循環になり、みんなは他人を助けることを誇りである思うようになり、やがていわゆる友愛、そして大同の世界になると確信している。

遠く昔の飛鳥時代、聖徳太子は「和を以て貴しとなす」を基準とし、「和」、即ち均衡と愛は日本人の基本的な精神の一つであると感じ、「友愛」の精神はその継承であると思う。友愛と博愛は柔軟な力であるが、これは武力などに敵わない力であると思われる。一つ一つ小さな星が空に集まれば美しい銀河となり、小川が集まればやがて大河になる。友愛の精神もこのように、世界の小さな善意と愛を集め、やがて愛が溢れる世界になると、私は強く信じている。

張亜男（4年）



「友愛」という言葉を聞いて人は、どんなことを思い浮かべるのだろうか。辞書の中には「兄弟または友人間の情愛」と説明しているが、私の心の中には、言葉より、具体的な場面が先に生き生きと浮かんできた。

子供の頃、横断歩道で困っていた私を見て、手を引いてくれた通りすがりのお姉ちゃん。冬のある日、校門の売店で暖かい焼きいもを買って、皆に配った小学校のクラスメート。旅行中楽しく話し合った観光客の外国人青年。道端でお腹が痛くてしゃがみ込んだ女の子を寮まで送った友達。このような場面はいつも私の心を暖かくさせる。年齢、男女、民族、国籍に関わらず、人と人はお互いに理解し、お互いに信頼し、自然に親しみを表すことこそは「友愛」と言えるだろう。

こういうように他人を愛する気持ちはいつから生まれたのだろうか。まだ幼かった私たちはおてんばで、蟻の穴を掘ったり、水をその穴に注ぎ込んだりして、気にもかけずにいろいろいたずらをしたのに、いつから蟻も命を持っているものだと分かったのだろうか。人間はまだ赤ちゃんの時、世界中で自分しか見えないという言い方がある。欲求が満足されたら笑う。欲求が満足されなかったら、必死に泣く。だが体の成長にともなって、頭も心も成長してゆくにつれて、他人も自分と同じように思想や感情があるものだとだんだん分かってくる。だから、他人が笑う時自分も嬉しく感じ、他人が泣く時自分も悲しく感じる。こういうふうに関心を持って他人の感情を同じように感じるのは「友愛」の始まりだと

思う。これは、「同情」ということである。

中国語には「感同身受」という熟語があり、日本語にも「身につまされる」という言葉がある。どちらも他人の苦しみ、悲しみなどをまるで自分の身に起こったことのように悲しく感じるのだ。しかし、「同情」ということは本当に可能だろうかとは私は疑っている。

「失意の胸へは／だれも踏み入ってはならない／自身が悩み苦しんだという／よほどの特権を持たずしては—」。これは米国の女性詩人の詩である。しかし災厄に遭って、家、家族、友人を失った人々の悲しい姿を見て、テレビの前の私たちも心が痛くなったのはなぜだろうか。恐らく皆はこの身で災難を受ける悲痛さが分かっているから、だから私たちも悲しく感じて、お互いに励ましたい、お互いに支え合いたいと思うのではないか。

先日のフランスのパリで起こったテロ事件には驚いた。世界各国の人々と一緒に「Pray for Paris」と共に、私は「友愛」が必要であることをいっそう信じるようになった。民族や国家の違いはもちろん、そもそも各個人はそれぞれ別々の存在である。もし他者に対し、同情ができないと、友愛もできない。そして、人を殺すなどというとても信じられない事件が起こる。決して安定したとは言えない今の世界の中で、友愛は友人間の情愛だけではなく、もっと広い範囲で考えるべき言葉だと思う。

邵雪颖（3年）

私が初めて友愛という気持ちに触れる経験をしたのは、小学生の時だった。三年生の時、教科書に「一杯のかけそば」という日本の物語があった。第二次世界大戦後、辛い世の中で生きている貧乏なお母さんと二人の息子たちは大晦日の夜にだけ一人前のかけそばが食べられた。そば屋の主人は彼らに同情して、大盛りの分量のそばをゆでた。そのようなことが3年続いた。日本の経済発展に伴って、子供たちは成長し、感謝の気持ちを持って、立派な大人になった。数年後にお母さんと息子たちがそば屋の主人と再会する場面を読んだところで、涙が出てきた。平凡な世界の中に存在する人間性の美しさを見て、他人を思いやる暖かい優しさ、という意味の友愛が初めて私の心に深く響いた。

思い起こせば、私が子供のころ、中国にもこのような友愛が満ち溢れていた。しかし、大きくなるにつれて、見える世界もだんだん変わってきた。今、中国では、当たりやが多くなったり、食品の安全問題が深刻な問題になってきた。皆専ら利益を追い求め、友愛の心を失い、人々は心の中にバリアーを作った。それだけではなく、経済の急速な発展に伴って、湖は汚れて、青空も消え、人々は自然を愛する心も失ってしまった。

人間はいったい何を求めているのか、そして、友愛の心や和の世界を尊重する心を忘れてしまうのだろうか。そういう疑問を抱き始めるようになった。

そんなある日、朝の通勤ラッシュ時に、私は地下鉄に乗った。大きなスーツケースを抱えた私は、エレベーターがない駅で、乗り換えのため、階段を上って、少し離れた別のホームへ行かなければならなかった。人の波に押し流されて、焦っていたところ、ある知らないおじさんが私に近づいてきた。彼は自分のカバンを私に渡すと、両手で私のスーツケースを下げて階段を上がってくれた。助けてもらったお礼に「ありがとうございます」という言葉を口に出そうとしたところ、

彼は手を振って走って行ってしまった。足早に去っていく彼の後姿を見て、目頭が熱くなり、おじさんの優しさに心を打たれ、今の世の中にも他人を思いやる優しい気持ちを持った人がいるんだなと思った。心の温まる思いで、私の平凡な日常世界の中で見つけた友愛の美しさに感動した。

それと同時に「一杯のかけそば」という物語が再び脳裏に浮かんで来て、物語の深い意味がようやく分かるようになった。時代や国籍を問わず、人間はやはり友愛を求めているのではないだろうか。

私にとっての友愛とは、単に一個人が他人を思いやる暖かい感情だけではない。友愛は戦後のバラバラになった日本人を一つにまとめ、新しい先進国を建設したパワーにもなったと思っている。しかし、その友愛の気持ちは、日本人だけが持っているものでは決してない。人々が友愛の気持ちを持っていさえすれば、中国ひいては全世界の人々が平和を愛し、生き生きと社会が発展すると思う。

.....

趙宇傑（4年）

以前私は、淵源がフランス革命まで遡れる「友愛」という言葉を漠然とした高嶺の花のようなものとしか思わなかったが、日本友愛協会の川手正一郎先生の「世界平和と友愛思想」という講義を伺い、「友愛雑感—62年の友愛運動を顧みて—」や鳩山一郎先生が訳された「友愛革命」を拝読し、友愛に対して、実感がわき、理解が一層深まった。ここで、「友愛」について、自分なりの感想を述べたい。

友愛は、人間が本能として愛を求め、より良い自分づくりという心の革命か

ら生まれたものであると思う。

カレルギー伯は、紳士淑女によって構成される友愛社会を目指すと主張した。そして、私が一番興味を持ったのは彼が言った「普通の才能と才識を具備した人ならば、この理想に到達することができる」ということである。

大学二年生で日本へ交流に行った時、NPO 法人鎌倉ガイド協会のシニアボランティアの方々と交流した。定年を迎えられたボランティアの方々は、ようやくゆっくり休める時間ができたのに、その貴重な時間をさいて、自ら進んで誰かの役に立とうとしていた。彼らの笑顔が輝いて見えた。この時の彼らの笑顔を思い出し、孔子が言う「心の欲するところに従いて矩をこえず」というのはこういうことだろうと今改めて思っている。

シニアボランティアの方々の友愛あふれる姿を見て、これこそカレルギー伯の言う紳士淑女の姿であると感心しながら、自分も彼らのように他人のために微力を尽くしたいと考えている。

カレルギー伯は、また、友愛の核心が母性愛であるとも主張した。母性愛は人種、民族、言語等々を超える無私な愛である。カレルギー伯が本当に言いたいことは母性愛に基づいた友愛は国境をも超える一種の博大の愛であるということだろう。友愛は、世界を繋ぐ架け橋であると思う。

このように書くと、友愛は非常に崇高なイメージを連想するかもしれないが、身近なところにも友愛は確かに存在する。中国が四川大地震に遭った時、また、日本が東日本大震災に遭った時、世界各国の人々が被災地区へかけつけ、苦しんでいる被害者たちを助け救ったことを思い出すたびに、熱いものが胸にこみ上げる。友愛は近くにあり、人種や国籍を問わず人々の心の中に存在し、世界を繋いでいく。

また、友愛は、人間が自然を愛し、自然と共に共生を求めることでもあると

思う。

ドイツの哲学者のカントは、「自然は人の目的の為にあるのではない。人は自然の目的の為にあるのだ」と述べたが、人間の底無しの欲のせいで、地球環境問題は現在、非常に深刻化している。人類は未来のため、自然を大事にしなければならぬ。日本友愛協会と中国は協力し、植林事業を十五年間も続けていることは、世界に緑をもたらすだけでなく、希望の芽も育てている。この希望の芽も自然を媒介として生まれた友愛だと言えることができるだろう。

川手先生は、「世界平和と友愛思想」の講演で、「ハチドリの一とせずくから」という物語を話した。森が燃えた。ハチドリは嘲笑されたにもかかわらず、水の滴を一滴ずつ運んで火の上に落とすとしていた。

私も、ハチドリのようにたとえ微力でも自分にできることをして、友愛を伝播したい。友愛は理想を指し示す灯台だけではなく、我々が踏みしめている道でもある。

.....

李 晨（4 年）

つい先日のことである。いろいろな意外なことが重なって、留学の出願書類提出の締め切りの当日は、すべての準備が始まった日ともなった。どこまでも永遠に走り続けなければならないと感じるほど忙しい一日であった。すべての手続きが完了した時、外はもうとっぷり日が暮れていた。そして、私に残された最後の仕事は郵便局へ行ってすべての書類を発送することだった。しかし、私にとって、これも最後の挑戦だった。

郵便局の営業時間内に間に合うかどうかととても心配し、必死に学校の郵便

局へ走って行ったが、ほんの1、2分の差で間に合わなかった。郵便局の係員さんが「今日発送する郵便物はもう町の郵便局へ届いているから、今こっちが受けても総局へ届けられない限り発送できない」と丁寧に説明してくれたが、いらいらしてどうしたらいいのか分からなくなった私は、「そこをなんとかならないでしょうか」と何度もお願いするしかなかった。その時、一人の係員さんが「今すぐ町の郵便局へ行ったら、多分あっちの発送郵便受け取り時間に間に合うことができる。あなたをあっちへ車で連れて行ってあげるよ。」と言って、私を遠くにある町の郵便局まで車で連れて行ってくれた。この親切な係員さんのおかげで、幸いにも町の郵便局の発送受け取り時間にぎりぎりでも間に合った。

この係員さんは自分の車で私を送ると決めた時、それなりの責任を負う覚悟をいただろう。戻ってきて、残業をしなければならないだろう。そうまでしても、目の前の見知らぬ学生を助けるのは友愛の心からだろうと思う。

私にとっての友愛とは、家族や友達はもちろん、見知らぬ人々に対しても暖かい気持ちや愛を惜しまないことだと思う。ずっと見守ってきてくれた家族たち、お世話になっている友達、そして、優しくしてくれるたくさんの見知らぬ人たちがいるからこそ、今の私がいると思う。私が今まで経験した困ったことには、単に道を迷ったことから、父の看病というずいぶん大変なことまで色々あった。しかし、幸いなことに、私が出会った優しい人たちは私が経験してきた困難より多い。人はどんな状況でも、決して一人の力ではなく、多くの人々の支えの中で生きているということを教えてくれた人たちに感謝したい。無償の愛を捧げ、私を助けてくれた多くの人たちに感謝したい。そして、私もいつの日か自分の力で周りの人々の生活を少しだけ変えたいと思う。今の私の力はまだ小さいが、確実に一歩を進めると未来を拓くことができると信じている。一人ひとりの力は微力だが、多くの小さな力が集まればきっと、より良い社会ができ、きつとこの世界

を変えることができると思う。

来年は日本へ留学に行くことになる。初めて外国で勉強し生活するので、今想像しただけでも少し心細くなり、新しい環境に対する期待感でわくわくする一方で不安な気持ちになることもある。しかし、自分で選んだ道だから困難を乗り越える覚悟をしなければならないと思う。それに、私の周りの日本人の先生や留学生の友達は皆優しく、今でも色々お世話になっている。この人たちとの付き合いを通して、友愛の心は国境を越えて全世界の人々に共通であると信じている。以心伝心、助けてくれた人たちに素直に感謝し、自分もできるだけ周りの人を助けながら、ますます心を強くし、そしてたとえ僅かでもこの世界を良い方向へ変える優しい心、すなわち友愛の気持ちを持っている立派な人になりたい。

.....

陳貴華（4年）

中国人として、友愛といえば孔子が主張した思想である「仁」を思い出す。「仁」という漢字は「人」と「二」と二つの部分があるから私はこう考える。「人」はわたし自身、「二」というのは世の中のほかの人たち。二つの部分を合わせて、つまり、わたし以外はまだ大勢の人がいるから、みんなと仲良くして、互いに助けて、他人の身になって考えれば「仁」になる。

「仁」の精神の基礎といえるのは「孝悌」ということである。父母に仕えて孝をつくし、兄弟と仲良くするなど、人々はこのような友愛の人間関係を通して、個人的な「仁」という状態になれると孔子が主張した。

しかし、「仁」の精神は私の理解した友愛の精神とは違いがある。孔子が提唱した「仁」というのは人と人との人間関係の中で生まれたもので、最後の結果と

なるのは自己完成である。これに対して、わたしにとっての友愛とは、ただの自己完成ではなく、自分のささやかな努力で、他人に、社会に、さらにこの世界に伝えたいものである。

「孝悌」というのは、もともと一家のことで、家族内部の関係を表す言葉であるが、「孝悌」ということの極みをすれば、神にも感動させられ、世の中の人はこのような精神に感服するだろう。そうすれば、みんな「孝悌」ということをまねして、この世界はもっといい世界になるかもしれない。他人や社会やまたこの世界に友愛の精神を伝えたら、ささやかでも、何かを変えるであろう。

先日パリでテロ事件が起こった。百以上の人はこの事故で遭難した。テロ行為をした人たちは自分が悪いことをしているとは全然思わない、これは一番怖いことだと思う。彼らの行為から友愛の精神が全然見つからない。この事件に対して、ひとつ確認しなければならないことがある。テロ事件は宗教の問題ではない。私たちはテロリストをとがめる同時に、ムスリム教徒を差別しない。何もしないのにほかの人にテロリストのように差別されたのは気の毒である。友愛というのは信奉するものではなく、意識してすることではなく、心から理解して、意識せずに自ら伝えるものだと思う。理解と尊重があるこそ友愛精神を伝えることができる。

テロ事件、ヨーロッパの難民問題など、いろいろな国際問題が深刻である。また、人間社会ばかりではなく、どのように人間の生存に係わる自然と共生するのか大きな課題である。友愛社会の実現は遠い将来であるが、一人一人友愛精神を持って、自己完成の上で、この世界にささやかな貢献をすれば、あの日きっと来ると思う。

.....

高佳蔚（3年）

小さい頃から、先生や両親はいつも「友愛」という言葉を使って「友達の間で、喧嘩はだめよ、お互いに仲良くしてね」と私に言いました。中国では小学校で子供たちはいつもこう言われます。当時の私はその友愛はフレンドシップで、友達は仲良くしなければならないという意味だと思っていました。大学生になって、よく友愛とは一体どんな意味だろうと考えるようになりました。今の私にとって、友愛とは二段階の意味があります。

まず、すべての出会った人に対して愛を抱くという意味です。辞書で調べてみると、友愛は知人に対して献身的な愛を捧げ、見知らぬ人に対しても必要な愛を惜しまないことだと書いてあります。今の私は献身とまで言わなくても、友達だけでなく、すべての出会った人に愛の気持ちを持つことは大切だと思います。例えば、寮の管理人に会った時は、黙って出て行かず、元気に「こんにちは」と挨拶し、学校の警備員に会った時は、無視しないで、ちゃんと「いつもありがとうございます」とお礼を言い、掃除のおばちゃんを見かけた時は、ゴミを置いて足早に立ち去るのではなく、「ちょっと手伝いましょうか」と尋ねるようにします。このように愛を抱いて人に接するのは友愛の一形態だと思います。

そして、すべての人に愛を抱くにとどまらず、本当に大切な部分は第二段階の友愛で、抱いた愛を捧げるのです。中国のある歌に、人々がみな愛さえ捧げれば世界は美しくなるというフレーズがあります。このフレーズのように、愛を抱くだけでは十分ではなく、愛を捧げて初めて友愛と言えると思います。では、どのように他人を友達のように愛し、どうやれば愛を捧げることができるのでしょうか。それは簡単で、まず身の回りから始めればいいと思います。身体が不自由な人を見たら、できる範囲で手伝い、弱いものいじめを見たら、すぐに制止し、困っている人がいたら、無視しないで手伝うようにします。つまり、何か壮大な

ことではなく、身の回りの小さなことから、愛をささげていけば良いのです。

まず、人を愛することを学び、愛の気持ちを抱きます。そして、他の人にもうやって愛の気持ちを伝えるかを学び、愛をささげる行動に移します。知人にも見知らぬ人にも愛を分かち合うことこそが友愛の本当の意味だと思います。フレンドシップだけでなく、実際に愛を捧げるのです。

.....

戴 玲（3 年）

友愛という言葉は、「友」と「愛」という 2 つの文字からできています。またその発音は英語の「you」と「i」に似ています。私は、友愛というのは、自分の周りの人や自然を大切にし、よい関係を築いていくことだと考えます。この意味で友愛思想を実践することは非常に重要なことだと思います。

以下、友愛の実践に役に立つ、二つの例をあげたいと思います。

まずは人々の心構えです。国や人種の違い、政治体制の違いに関係なく、博愛の精神を持って人々と広い心で友人のように接し、自分の気持ちを理解してもらおう努力をすることです。同じ地球上の人類として、私たちは皆平等です。そう考えると、人は他人の考えを理解しやすくなるでしょう。例えば、先日パリで悲惨なテロ事件が起きました。ロシアや日本のフランス大使館の前に人々が花を手向け犠牲者を追悼したように世界中の人々が、このテロ事件を嘆き悲しんでいます。これは、全世界の人々が皆友愛の気持ちを持っているからではないでしょうか。人と人とのつながりが、すべて友愛に満ちた状態になるのは難しいことですが、それは非常に大切なことだと思います。また、川手先生のお話にあった「自由、平等、博愛」も友愛の思想の中に含まれるのではないのでしょうか。今

年の夏休み、私はボランティア活動に参加し、貴州省にある少数民族の小学校で子供たちに勉強を教えたり、一緒に遊んだりして一ヶ月過ごしました。この活動を通じて、私は少数民族の人々の生活や文化に触れることができました。自分たち漢民族との違い初めこそ戸惑いましたが、彼らと一緒に過ごすに連れ、自分と彼らの違いは表面的なものに過ぎず、同じ人間として、何の違いもないということは今更ながら痛感しました。少数民族の人々も、私と同じように友人関係や恋愛関係、学校の成績で一喜一憂したりするなどお互いの経験を語り合うことによって、人として、彼ら彼女らの心と繋がることができ、楽しく有意義な経験でした。このような友愛の上になりたった関係ほど素晴らしいものはありません。

もう一つは、人間と自然の関係です。現在、私たちは地球温暖化や大気汚染など様々な環境問題に直面しています。人類皆地球に対して友愛の気持ちを持たないと、私たちは生存することも難しいのではないのでしょうか。私も、自分の身の周りから地球を愛する活動をしていきたいと思います。友愛協会の植林活動のような活動に積極的に参加して、地球にやさしくするための努力をしていきたいと思います。

私にとって友愛とは、それを実践することにより、自分を人間的に高めていくものであり、世界を変えていく思想でもあります。皆が友愛思想を持てば、お互い理解し、尊重し、助け合い、世の中から争いや環境問題が減るのではないのでしょうか。そして、世界は平和に満ち溢れ、人々が幸せを感じることができるようになるでしょう。

.....

班宇識（2年）

「友愛」という言葉は一体何を意味しているのでしょうか。私の理解では、「友」というのは姉妹兄弟や友人同士の話で、愛とは、互いに助け合うことだと思う。人によって、「友愛」の意味がそれぞれ違うと思われるが、わたしかから見れば、友愛は愛情と友情両方とも含めていて、それに相手の人は家族や親しい友人だろうか見知らぬ人だろうかを見わけすることではなく、いつも熱心で助けたいという感情は友愛の最も重要な意味だと思います。

ふと顔を上げると人は、同じ遠く広がる青空が瞳に映る。昔、社会は通信や交通の不便さのゆえに、人々は自分が住む地域以外の世界に関心を持たずに悠々と暮らして来た。ふと振り返れば、今は会いたい人が外国にいても、時間さえあれば飛行機で会いに行ける。毎日各地や各国で起こることもすぐにインターネットで知れる。それでだんだんと、各地の色々な記事を見るたびに、自然に何かあったのかを詳しく知りたくなる、探求心が強くなり、できるだけ何かをしなければならぬと思ひ、ますます世間に関心を寄せるようになる。たとえば、先日パリで発生したテロ事件、多くの人々が犠牲になりました。各国の人々がニュースでこの事件の放送を見た後、すぐ「君たちはひとりじゃない！みんながいるよ！」という温かい言葉で伝えて、支援や応援も多く、各国も一緒に積極的に調査を開始して、テロ犯人を捜している。この事例から世界中の人々は友愛を心に持っていることが明らかである。

人が困難にあった場合、知らなくても、国籍や民族や人種なども関係がなく、みんなは心が共通しあっているのです、熱心に助け合う。たとえば、中国、日本などの国が大震災を受けた時、ある人は家を失った人を自分の家に入れて休ませ、ある人は国内と海外にいて援助できず、でも祈りと関心の言葉を伝え、生活物資も多く届けた。世界中の人々は心の底から「頑張れ！」と叫ん

だ。そういう温かい気持ちは、友愛ではないかと思います。

今地球も「地球村」とあたたかく呼ばれているし、人間も理解しあえている。どんな場合でも人々の運命がつながっているので、困難がある人を助けるのは何よりだと思われる。同じ地球で暮らして、それが人々は深い友愛の絆が結ばれている何よりの証です。

わたしにとって友愛とは、自分のことだけではなく、他人の立場を理解して、お互いを分かり合い、助け合うという感情だ。友愛は、本当にあたたかい感情の一つである。

.....

汪玉珏（3年）

今年の9月、日本友愛協会の川手さんと出会って、いろいろなお話を聞いた後、初めて「友愛」という概念について考え始めた。

日本友愛協会は相互尊重、相互理解、相互扶助と言う理念を中心にして活動を行っている。私にとっての友愛とは、一言で言えば、「希望の光」ということだ。

まず、一人の人という立場から考えると、友愛とは他人を自分と同じように愛することである。人間は生まれながら人を愛する能力を持っているはずなので、それは簡単なことではないか。別に大きなことをしなくてもいい、例えば、他人が何かあまりよくないことをしても理解して許してあげ、何かあったら助けてあげること。つまり、相互尊重、相互理解、相互扶助こそ大事なのだ。それさえできれば、人々は人類の無償の愛と暖かさを感じられて、自分の人生に希望を持てるであろう。

次に、社会的な方面から言えば、友愛とは社会を一段とよくさせるために、自

分はできるだけのことをすることだ。それは人によって違うが、少なくとも自分の仕事をきちんと完成することであろう。私の見た限りでは、川手さんがそんな人の代表の一人に違いない。昔からずっと一生懸命頑張ってきて、ひどい病気になっても諦めたことは一度もなかった。そして、現在は高齢になっても諸外国で多種多様の活動に参加して、自分の経験を周りの人たちに教えてあげて、みんなを励ましている。私は、川手さんのストーリーを聞いた後、励みになって、「やはり人生は諦めない限り希望がある」と思った。

最後に、環境に対して、友愛とは、地球にやさしくすることである。今現在に至って、我々の住んでいる環境は既にひどく破壊されて、これからも破壊される恐れがある。今行動しないと、人類の未来はどうなるのか、それは想像するだけで恐ろしい。

友愛の基本は人間としての在り方だが、そんな観点から人間を見ると、人間は人間社会ばかりでなく、人間の生存に係わる自然を含めての問題を探求していくことがこれからの人間社会の継続に欠かせぬ条件でもあるのではないかと思う。

そう考えていたからこそ、川手さんは長い間に色々植林活動をして来たのであろう。既に中国の数多くの荒地を森に変えて、それらの地方の環境は改善されて、人々もそこに新たな希望を見出した。

つまり友愛の気持ちを持てば、このように、人間にも、社会にも、環境にも、希望をもたらすことができる。友愛というものは、本当に不思議な力を持っているのだ。

だからこそ、友愛は「希望の光」だと私は思っている。

.....

鄒 桓（4 年）

先日、パリで発生した同時テロについて、ある父親が息子に説明した言葉が私の胸を打っている。

ピストルを持つテロリストがいるために、フランスから引っ越さなければならぬと考えている息子に父親はこう言って「テロリストには確かに銃を手に入れた。でも私達は、花がある。花とロウソクは、僕たちみんなを守るものなんだね」と。事件で多数の犠牲者を出したコンサートホールの前には、たくさんの哀悼の花が置かれていた。

このビデオを見て、この話を聞いて、辛い中にも心温まっている。その父親の言葉を深く考えると、ここで、花は友愛の精神を象徴しているのではないだろうか。私はそう思う。テロリズムに対して、被害者である私達一般人お互いには花を持つ、つまり、友愛の精神を持つべきである。

テロリストは私達が恐れを抱き、同胞に不審な気持ちを持ち、安全に生きるために自由を失うことを望んでいる。もし私達が彼らの罪悪に怒りで応じれば、今の彼らのように無知の犠牲者になるだけである。だから、こんな場合に、私達は花を持ってテロの犠牲者やその家族の方々に思いを寄せ、敬意を表す。また皆で一致団結して勇気を出し、テロリズムに直面することは何より重要だと思う。

パリの市民は、事件で友愛の精神を私達にはっきりと示している。暴動の中で、皆お互いに助け合って、たとえ相手はよく知らない人でも、できるだけ相互扶助、命を守っていた。カンボジア料理店で起きた銃乱射でも、近所に住むホセ・ビアナさんが 18 歳と 14 歳の息子 2 人と外に出て門を開き、敷地を開放した。10 人以上が急いで逃げ込み、銃撃がやむまで敷地内に隠れて命拾いした。病院には、献血に来た人の列ができ「自分の順番が来るまで、3 時間待った」という人も。病院スタッフの中には勤務日ではないのに自発的に駆けつけたり、また、近所の

開業医、定年退職した元医師たちも、役に立ちたいと集まって来たという…このようなことは、友愛なことだと私は感じている。

人類が進む唯一の道は平和と友愛だ、それが実現できるよう、皆で一致団結して行かなければならない。花を持って、ピストルと戦い、友愛の精神は遠くにある戦火を消すことができると私はずっと信じている。

.....

顧 盼（3年）

この二文字を見ると、中学時のある小さいことが頭の中に浮かんできます。

放課後、友達と分かれて、歩いて家に帰る途中、突然後ろから親切な声が聞こえました：「おねえちゃん、靴ひもがほどけてるよ。」自分の靴を見ると、やはりほどけていました。声をかけた男の子は自転車に乗って離れました。「ありがとう」も言えなかったので、少々残念でした。しかし、心の中が暖かくなりました。自分とあまり関係ない人に善意の注意をくれて、本当に心が優しく、友愛の人だと感じます。それに、簡単に気づかないことに気づいて、かなり敏感で繊細な人だと思います。

さて、自分によって友愛に対する理解を述べます。

友愛の人はどんな特徴があるのでしょうか。

まず、作文の始めに言った男の人のように、敏感と繊細という特徴を持たなければなりません。なぜかというと、そういう特徴があってはじめて人が何を思っているのか、何か手伝うことがあるかななどを分かりますから。

そして、友愛の人は狭い民族主義を持たない人だという点も重要です。高いレベルから物事を考えて取り扱って、心が広くて、一切を許します。

今日のニュースによると、日本の靖国神社で爆発騒ぎがあつて、火災になりました。靖国神社には第二次世界大戦の A 級戦犯を祭っているから、中国人は嫌っています。だから、このニュースのコメントを見て、人々は“おめでとう”などのあまりよくないことを言いました。物事はめちゃくちゃに混ぜて考えてはいけません。今度の事件はその場にいた人たちの怪我状況と火災のひどさに関心を持った方がいいのではないのでしょうか。それは歴史を忘れることではなく、全人類の立場から、冷静に考えることです。人の不幸を喜ぶのは絶対友愛の人とは言えません。

最後は行動することです。いくらきれいなことを言っても、行動しないと、何の結果もなく、この世界は少しもよくなりません。だから、自分ができる範囲で人に手伝って、この社会を改善したほうがいいでしょう。川手正一郎さんのスピーチを聞いた後、こういう考えをさらに確信しました。川手さんは何回も中国にきて、広く植樹事業を進めています。かなり年齢も高いのですが、依然として社会に貢献しています。私はとても感動して、これからも自分で友愛のことに実践しようと決心しました。

社会は一人一人で作られています。もし、大多数の人が友愛精神を実行するならば、その社会は友愛社会といえるでしょう。

友愛社会では、人々は自分一人の利益を考えるだけではなく、周りの人、或いは一回も会っていない人のことを考えるべきだと思います。お互いに助け合つて、お互いに進歩します。例えば、成績がいい学生が自主的に成績がふるわない学生に教えてあげることや、先進国が発展途上国を助けることなどです。

もし、友愛の社会ができれば、戦争も少なくなり、人々の差別も小さくなります。自分だけの利益のためではなく、人々を友達として大切にし、心からの満足と愛を求めて、生きることができます。

友愛の世界を作るために、頑張っていきましょう。

.....

張婉舟（2年）

友愛は自由と平等を繋ぐ絆であると「自由と人生」を書いたカレルギーは言った。自由と平等というのは誰もが言いたいことを言い、やりたいことをやり、叶えたい夢を追い掛けることだと思う。しかし、もし二人のやりたいことが対立すれば、争いがおこる。そのとき、友愛の思想が必要になる。お互いを理解し、尊重し、助けあうことこそ友愛だと私は思う。

道を外れるのは自由だという考えは間違いなく誤りである。十一月にパリで起きたテロ事件は世界を震撼させた。百人以上がテロリストに殺されてしまった。おそらく、テロリストにとっての自由とは自分の主義主張や信条に反していると思えば、他人の命さえ奪えるものだ。自由は絶対にそんなものではない。人間として、他人を尊重し、平等に向き合わなければならない。この平等の精神を無視すると、世界から友愛がなくなり、十一月のパリのように、私たちの日常は恐怖と悲惨なものに変わってしまう。

人は、たとえ大統領や大臣であろうとも、万能ではない。従って、自分の意思で他人の運命を決める権力も他国に内政干渉する権力もない。神も法律もそういうものを許していないはずだ。しかし今日に至るまで、世界各地で、そういう間違いが起きている。それは平等と友愛を忘れた偽の自由だと思う。

人がきれいな花を好きになるのは自由な意思によるものだと思われる。そのため、好きだからという理由で勝手に花を摘む人は後を絶たない。しかし、それは花を、ひいては自然を尊重する気持ちがないからだと思う。花が好きなら

という理由で、なぜ我々人間は花を摘むという自分勝手な行動をしてしまうのか。その花のために、毎日水をやり、雑草を抜き取り、自然の中で花を育てるのも愛の形態の1つである。自由と平等は人間に対してだけではなく、花のような自然に対しても実現されるべきだ。そうすれば友愛の精神を行動に移すことが自然にできるようになる。友愛というのは難しいものではない。日常生活から始められる友愛の形もあるのだ。

己の欲せざるところは人に施すなかれと孔子は言った。彼は生涯を通じて「仁」の思想を説いた。残念ながら、その思想は当時の主権者には重視されなかったが、私は、今の中国にとって「仁」は重要だと思う。「仁」は友愛の意味と似ている。

「仁」は、友愛の思想のように周りの人、自然、それに他国と自由と平等の精神で接し、関係を築き、お互いに助け合おう、というものだ。また、私は、お互いの違いを理解し、相手の過ちを許すのも友愛の一部であると思う。例えば、私は相手に対して不満に思うことがあっても、相手を尊重し相手の意見を聞き互いに納得したら、再び交流を始めるようにしている。そうすれば、喧嘩を起こさず、平等なパートナーとしてお互いに人として高めあっていくことができる。皆がこのようにしたら、世界はきっと友愛の方向に歩み始めるだろう。それが私にとっての友愛である。

.....

蘆雅潔（3年）

六年前、高校の入学試験に及第した私は、喜んで入学の準備をしていた。予期せず、父は経営破綻して負債を負った。生活は一変した。しかし、高校と新華愛心基金会とが協力して、貧乏で優秀な学生たちを助けるというプロジェクトが

あり、幸いにも私は高校教育を受けことができた。しかし、何となく、私は恥ずかしくて卑屈感もあった。なぜ人に迷惑を掛ける人間になってしまったのかと悩んだりもした。しかし、久しぶりに親の笑顔を見ると、「自分の不満なんて、ほんの小さなものだ。毎日一生懸命仕事をする親を愛しているので、彼らにストレスを与えないようにしよう」と自分で決めた。

実は、基金会の関係者も学生たちを愛する気持ちがあるのではないかと思っている。「いつか、真珠のような輝かしい人間になってほしい」と、基金会の張君達氏は言った。心からほかの人に幸せな生活を送ってほしくて、何か手助けすることがあるだろうと思ったそうだ。毎日の生活の中で、私は隣の人を助けることが習慣になった。仲間にせよ、知らない人にせよ、友愛を信じるので、決して冷たい人間になれない。

当時助けてもらった私には、感謝の気持ちばかりか、「友愛」について新しい理解もあった。援助者の暖かさを大切にして、幸せな生活のため、クラスメートたちとお互いに励まし合い、まじめに勉強した。卒業後、私の家の暮らし向きはよくなったので、必要な人を援助した方がいいと思い、基金会の援助を断った。そして、暖かさを感じたので、なるべく友愛を与える気持ちも強い。例えば、動物を虐げることを聞いた時、今教育学を勉強している私は、その人の考えを理解できて、周りの皆の暖かさを導くのは大切だと思った。だから、自分から行動を始めるつもりだ。皆と協力さえすれば、暖かい社会になると思う。

しかし、社会の中で友愛がないこともある。例えば中国で、若者が年寄りを助けて、逆に年寄りにゆすられた例もある。実は、年寄りらは友愛がない人間ではないだろう。医療保険がないし、貧しい子供に迷惑を掛けられないし、保護意識が強い時、人間性の悪い面が現れた。したがって、制度を作って、人間の基本的な需要を満足させることも大切だ。さらに、今の環境は優しくないが、友愛の対

象は人間ばかりでなく、環境なども考えるべきだということを分からない人もいる。その場合、個人的努力は足りなくて、友愛協会のような、友愛のために頑張る強い団体が非常に重要だと思う。機会があれば、私もそんな団体に参加したい。

つまり、私にとっての友愛とは、まず自分を愛して、心から友愛を信じることだと思っている。そして、人からの暖かさを大切にして、人に協力すること。どんな挫折にあっても、川手氏のように、能力さえあれば、ずっとがんばれる。将来、視野が広く、強い人になって、世界の友愛事業に貢献したいと思っている。

.....

徐嘉澍（2年）

七十億の命がこの地球にいる、見知らぬ人は数え切れないし、よく知っている人も沢山いる、いつか隣を通り過ぎた人も少なくない。私はその一人一人との間に何かを感じる、友愛と呼ばれる物が私を満たしてくれる。それは一体何なのかを語ってみたい。

友愛は人と人の中にあるものだ。家族、友人や知人と言った身の回りの人がまず頭に浮かんでくる。つまり人と人の絆は友愛の一番大きな部分なのだと私は思う。でも友愛はそれだけではない、見知らぬ人との関わりも重要なのだと私は考える。親しい人に好意を持てるように、人は見知らぬ人にも好意を寄せることができる。困っている人がいれば助けてあげたい気持ち、その源は友愛にほかならない。

助けた相手に見返りを求める人もいる、私利私欲のために友愛の旗を振る人

達である。このような友愛は人を虚しくするだけである。残念なことに、このような偽物の友愛をよく見かける。以前ニュースで若者が倒れている年寄りを助け、“傷つけてないのならなぜ助けた？” なんと言う理由で若者は多額の大金を罰せられた。それからと言うもの、最近では倒れたお年寄りに近づく事さえ躊躇うようになった。現代社会は冷たい、利益の矛盾が多すぎる、そんな社会に友愛はあるのか？と疑問に思うときもある。

何時しかのことだろう、小さな時私は小銭を持たずバス（乗務員がいなく、お金を自分で運賃箱に入れる、その際にお釣りは出ない）に乗ってしまったことがある。財布にあるのは十元の大金、それを運賃箱に入れるのは小さかった私にとっても辛い事なのである。迷いに迷ってバスを降りようとした私に、“大丈夫だよ” と声をかけたお姉さんが後ろから二人分の運賃を運賃箱に入れた。その時私の胸は自分への後悔とあのお姉さんへの感謝でいっぱいになった。小さい頃感じる事が出来なかった気持ちを今は感じる事が出来るようになった。今も心を満たしてくれるこの気持ちは、きっとそのお姉さんの友愛が私にくれた温もりなのである。

私は信じたい、人は他人を信じる力を持っていると。ギブアンドテイクではなく、ギブアンドギブの友愛を私は求め、七十億分の一の出会いを一つ一つ大事にして行きたい。人の心にある善意から生まれる友愛、それが人々を満たしていき、温もりのある社会を築き、明るい未来の礎となるだろう。

.....

王 菁（2年）

友愛について、私は真っ先に思うのはある女の子の笑顔。

中学校の時反抗期なので無口になりました。毎日学校に一人で静かにして一言も言わずにぼんやりして休みを過ごしました。休みになると周りは騒がしくなりますが、私と関係ないと密かに考えました。しかし、そんな騒ぎを傍観しながら一人で家に帰る度に孤独を感じます。その時私を闇から救ったのは友愛でした。

私の隣の席は陳さんといういつでも笑顔をしていた女の子でした。その笑顔はどんな寂しい心でも温暖められるようでした。そしてある日彼女は「王さんはいつもむっつりしていますね。ほら、笑ってみてね」と言いながら私を笑わせてみました。彼女のわざとしてコミカルな様子を見て、私は思わず笑い始めました。不思議なのはその後の数分は考えれば考えるほど楽しくて、笑顔はだんだん朗らかな大笑いになってきました。それは久しぶりの他人からの友愛を感じて心からの喜びだろうと思いました。

その後私にとって友愛は抽象的な情感ですが、具象的なもの、例えば笑顔や言葉などで表現することができます。それに友愛は国境を越えるものです。異なる言語は友愛の伝播を妨げません。

大学一年生の時一度日本友愛協会の講座を聞いたことがあります。その時日本語はまだうまくいかなかったが、講演の友愛についての精神を悟りました。そして交流会にできた毎田さんという日本人の友人とインターネットで交流したことがあります。私たちはいろいろな話題について交流して、遊び時の写真を交換しました。彼女と交流した時も友愛を感じられます。

それに少し前に、パリであったテロ事件後、各国の人々はその事件で亡くなった人に悲しく祈りました。それもまさに友愛を反映しました。

友愛は人間たちの間に限らずに、自然と人間の間にも存在しているだと思います。私達人間が使っている自然資源は自然からの友愛です。それに対して、私達もその資源を大切にしなければなりません。というのは友愛は相互作用があります。もし植物か動物を育てたことがあったら、その友愛を更に深く理解することができるだと信じています。

要するに友愛は境界線がなくすべての物事に対して友愛の態度が必要だと思います。私にとって一番友愛を感じる時は陳さんの笑顔を見た時、それから私は友愛の重要性が分かった、そしてこれからもずっと周りの物事に友愛の気持ちを持っていきます。



左は You（あなた）を表す Y。右は I（私）を表す I です。
You（友）と I（愛）で W（We 私達・World 世界）を構成し、
友愛の理念を表現しています。

日本友愛協会

<http://yuaikyokai.com>